

石垣

「従業員の超勤も減らしたし、育児休暇も充実させました」

働きやすい職場が企業を成長させると話す中、堅企業の経営者は、自社の取り組みを自慢した。「ご自身の働き方や健康管理はどうですか」と聞き返すと、「答えに詰まったようだった。人材確保のため「健康経営」を標榜する会社は増えたが、対象から外れているのが急に倒れたら会社の存亡にかかわるのに、その点には無頓着な経営者が少なくない▼経営者の健康管理に詳しいボデイインベストメントの日下部淑美代表によると、社長が突然大きな病気になる場合「心疾患が多い」という。その背景には、食事の在り方に対する関心の薄さが存在する。経営本を読んでも食事への知識が少ない人が多い。忙しいからといって、レトルト食品やインスタント食品ばかりに頼っていては、健康に良い影響があるはずがない。食事の時間と話す日下部さんは、「逆」に、仮に病気でも「次の手を考える時間」と受け止めるべきだと日下部さんは指摘する。「多少無理のきく人が経営者になる」と話すが、病気が来るメッセージと向き合おうべきだ」と言う。そこには、これまで通りの猛烈な働き方をしなくても会社が稼働している事実を直視したり、権限移譲に取り組んだりする必要が込められているのかもしれない▼従業員の健康管理は企業の責務である。この当たり前のことがようやく産業界に浸透しつつある今、これからは、トップの健康管理も経営者自身の義務であると考え、まずは栄養バランスの取れた食事を心掛けるべきである。取締役・中村恒夫